

理化学研究所における評価活動について

令和8年10月1日

国立研究開発法人理化学研究所



理事長 五神 真
(2022年度～)

理化学研究所

- 1917年に創立した、最先端の科学技術をリードする自然科学の総合研究所
- 日本の科学技術・イノベーションシステムを強力に牽引し、人類社会に貢献する中核拠点

- ✓ 物理学、工学、化学、計算科学、生物学、医学など、多様な分野における最先端研究を推進
- ✓ 国内外の研究コミュニティに対し、世界水準の研究基盤を提供

理研が有する研究基盤

大型放射光施設（播磨）



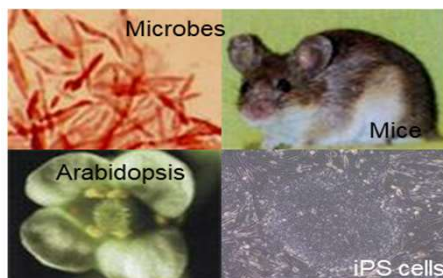
スパコン「富岳」（神戸）



重イオンビーム（和光）



バイオリソース（筑波）



2026年度 常勤従業員数※1

3,621人

研究系職員2,490人※2

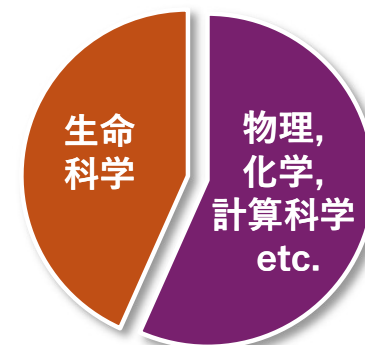
※1 2026年4月1日時点、招へいPI含む

※2 技術系職員560名を含む

2025年度 予算額

約1,786億円
(うち交付金592億円)

研究分野



和光

- ・最先端研究プラットフォーム連携 (TRIP)事業本部
- ・開拓研究所
- ・数理創造研究センター
- ・計算科学研究センター
- ・量子コンピュータ研究センター
- ・情報統合本部
- ・脳神経科学研究センター
- ・環境資源科学研究センター
- ・創発物性科学研究センター
- ・光量子工学研究センター
- ・仁科加速器科学研究センター
- ・放射光科学研究センター



量子コンピュータ



重イオンビーム

けいはんな

- ・バイオリソース研究センター
- ・革新的知能統合研究センター
- ・情報統合本部

播磨

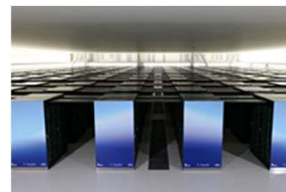
- ・放射光科学研究センター



放射光施設

神戸

- ・生命機能科学研究センター
- ・数理創造研究センター
- ・開拓研究所
- ・計算科学研究センター



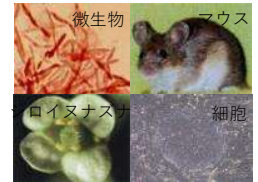
スパコン「富岳」

仙台

- ・光量子工学研究センター

筑波

- ・バイオリソース研究センター
- ・環境資源科学研究センター



バイオリソース

東京

- ・革新的知能統合研究センター
- ・数理創造研究センター
- ・計算科学研究センター
- ・生命医科学研究センター

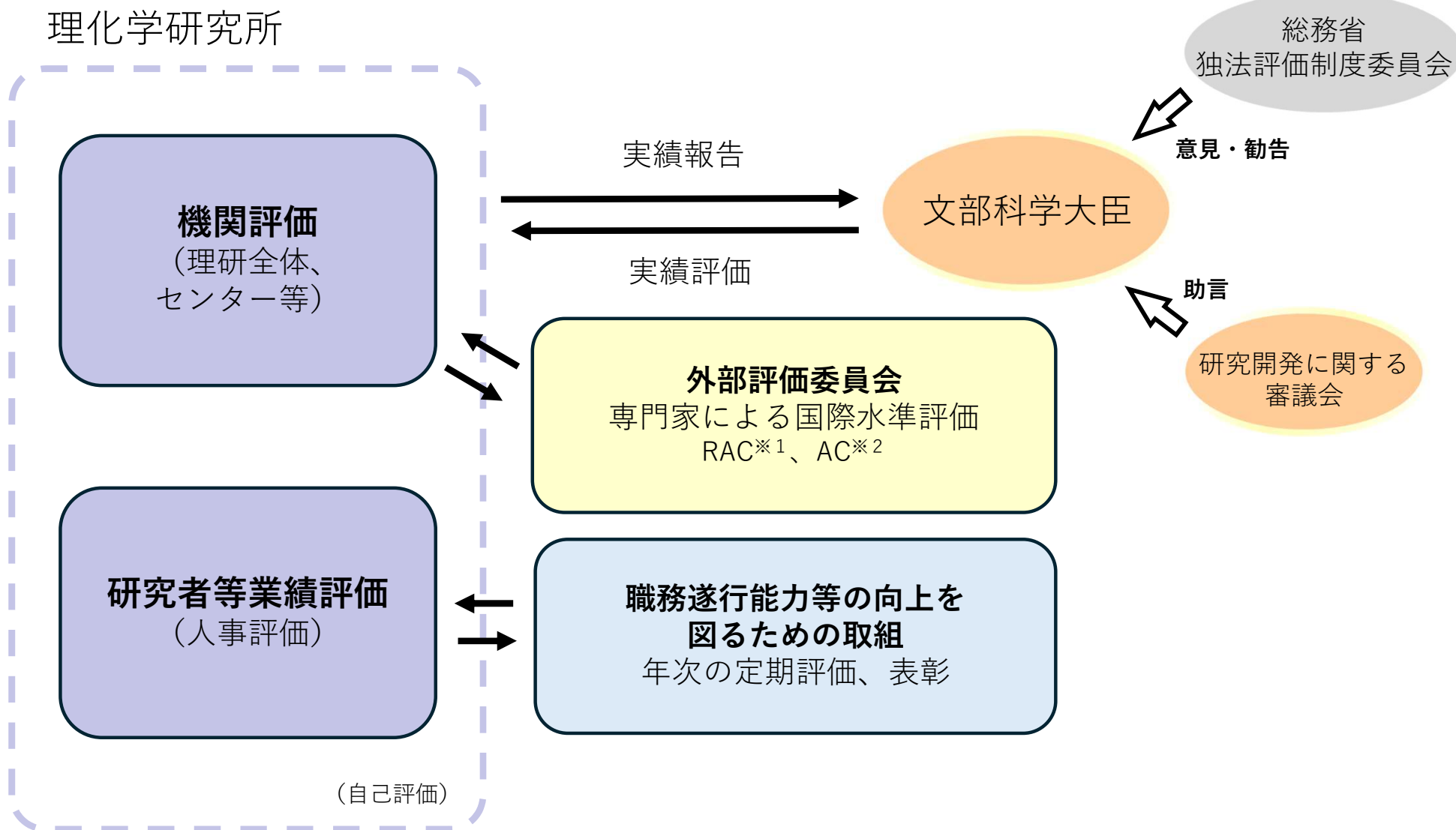


横浜

- ・開拓研究所
- ・数理創造研究センター
- ・計算科学研究センター
- ・生命医科学研究センター
- ・環境資源科学研究センター
- ・情報統合本部



クライオ電子顕微鏡



国の大綱的指針及び文部科学省の評価指針・基準に基づく評価

- * 1 : 理化学研究所アドバイザー・カウンシル
- * 2 : センター等アドバイザー・カウンシル

理研では、「年次での定期的な評価」と「表彰」の二本立てで研究者等の個人を対象とした評価を運用



大綱的指針における「研究者等の業績の評価」を踏まえた取組

- 論文等の研究業績以外にも評価の対象
- 研究管理職においては、人材育成やマネジメントについての評価項目を設定
- 社会実装に繋がる取り組みについては、年次評価のみでなく、表彰による評価も実施



個人の処遇に適切に反映

年次での定期的な評価について

無期雇用の研究管理職

- 対象者：研究室等の組織を主宰する者及び同等の地位にある者
- 目標設定：業績、人材育成、マネジメントについての目標を設定
- 実績・自己評価報告
 - ・ 業績、人材育成、マネジメントについての実績報告と自己評価
 - ・ 「業績」については、単に論文等の業績だけではなく、特許申請・取得、国際協力、産業連携、共同利用の促進、施設の高度化等、多様な分野において研究者の活動が多岐に渡ることを踏まえ、柔軟な形で記載可
 - ・ 「人材育成」については、室員の指導育成、キャリアパス管理等を対象
 - ・ 「マネジメント」については、研究室運営やセンター等への貢献などを対象
- 評価結果は、6段階（SS～C）の評価ランクに整理して、翌年度の年俸額に反映

無期雇用の研究一般職

- 対象者：研究員、技師、上級研究員、上級技師、研究支援専門職、高度研究支援専門職等の研究管理職でない者
- 目標設定：業績の取り組みについての抱負や目標、将来ビジョンや志向するキャリアパスへの取り組みについての目標を設定
- 実績・自己評価報告
 - ・ 業績についての実績報告と自己評価
 - ・ 「業績」については、単に論文等の業績だけではなく、特許申請・取得、プレス発表、研究センターや研究室への寄与、取得した資格など、個々の活動が多岐に渡ることを踏まえ、柔軟な形で記載可
- 業績だけでなく、能力や情意も含めて、評価した結果を6段階（SS～C）の評価ランクに整理して、翌年度の年俸額に反映

(参考) 人事評価表様式 (抜粋)

研究管理職

評価項目	評価対象	評点(各10点満点)
業績	所掌の組織・業務の範囲における業績があがっているか。論文、学会発表、招待講演、受賞、外部資金獲得、特許申請・取得、プレス発表	
	国際協力、産業連携、科学技術発展への貢献、社会への波及効果、新たな分野開拓、共同利用の促進、施設の高度化等	
人材育成	所掌の業務の中で、所属の人材の指導・育成を行っているか。(判断、指導育成、チーム員のキャリアパス管理等)	
マネジメント	所掌の組織や業務において、人的、物的、予算的に問題なく運営できているか。また、センター等の運営に貢献しているか。(規律性、責任感、経営意識、改革力)	
所見		評点の総計
【評価ランク】 SS:40～39点、S:38～36点、A+:35～30点、A:29～13点、B:12～5点、C:4～0点		評価ランク

研究一般職

評価項目	評価対象	評点(各10点満点)
業績評価	論文、学会発表、招待講演、受賞、特許申請・取得、プレス発表、外部資金獲得	
	研究室への寄与、科学技術発展への貢献、社会への波及効果、新たな分野開拓、業務支援等	
能力評価	研究遂行能力、取得資格	
情意評価	規律性、責任感、協調性、積極性	
所見		評点の総計
【評価ランク】 SS:40～39点、S:38～36点、A+:35～30点、A:29～13点、B:12～5点、C:4～0点		評価ランク

- 研究活動、技術開発活動又は研究支援活動において優れた業績をあげた者を表彰
- 研究開発だけでなく、社会実装につながる活動も表彰の対象として運用
- 受賞者氏名は、所外に公表

① 理研栄峰賞（賞金120万円以内／件）〈実績…2025年度：10件(32名)、2024年度：9件(28名)〉

- ・ 著名若しくは重要な賞の受賞に値し、又はその受賞に繋がることが大いに期待される研究開発業績をあげた者
- ・ 社会に強い影響を与えた研究開発業績をあげた者
- ・ 自らの優れた研究開発業績の活用を通じた社会への普及促進に顕著な貢献があった者

② 理研梅峰賞（賞金20万円以内／件）〈実績…2025年度：26件(62名)、2024年度：32件(87名)〉

- ・ 学会等において高い評価が期待される独創的な研究開発業績をあげた者
- ・ 研究所内外への優れた貢献が認められる研究支援業績をあげた者

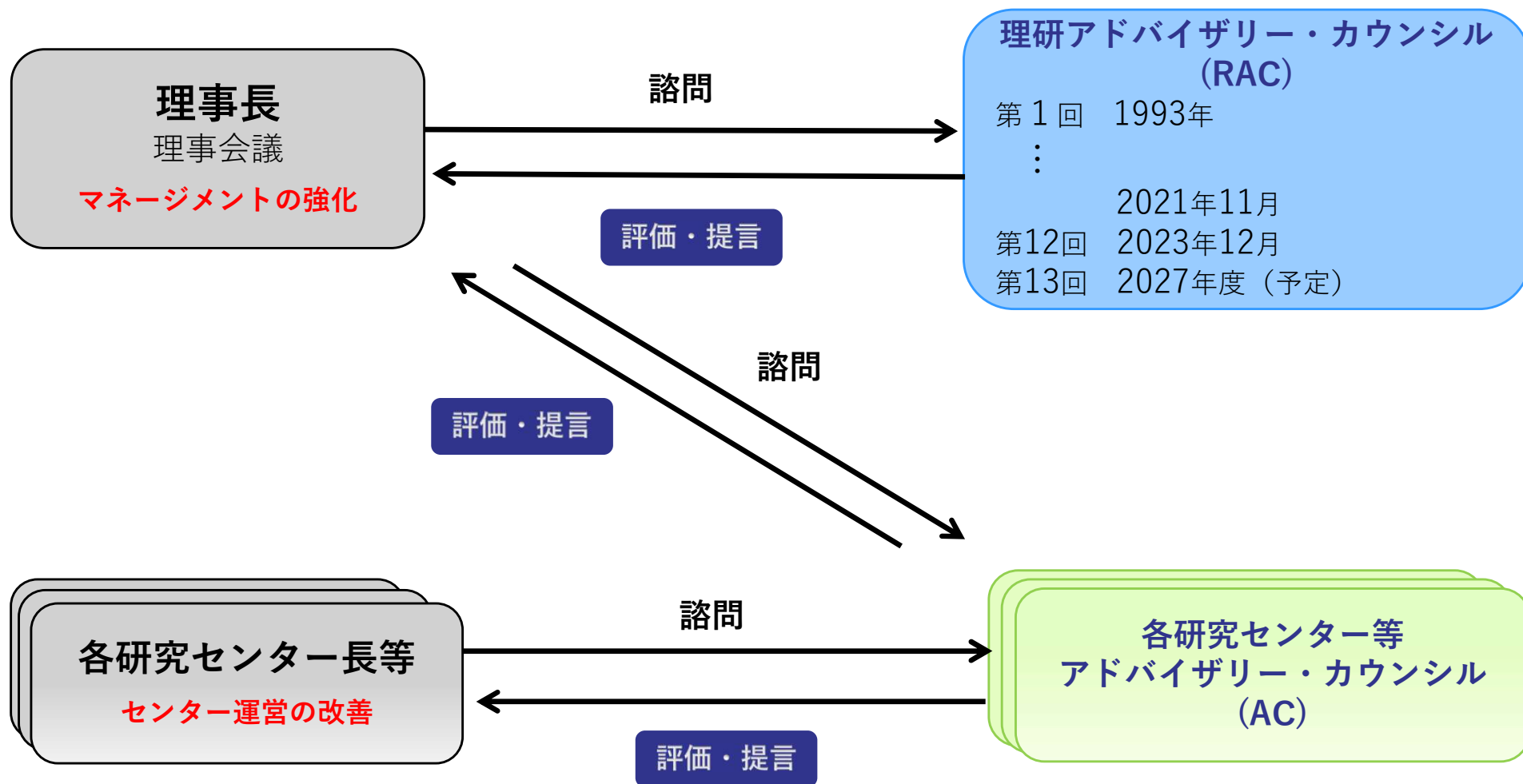
③ 理研桜舞賞（賞金5万円以内／件）〈実績…2025年度：35件(36名)、2024年度：34件(34名)〉

- ・ 活発な研究活動等を行い、優れた研究開発業績又は研究支援業績に顕著な貢献があった若手
- ・ 自らの研究開発業績又は研究支援業績の活用を通じた社会への普及促進に顕著な貢献があった若手

理研における機関評価について

理化学研究所では、機関評価として、国内外の外部有識者から構成される外部評価システム（アドバイザー・カウンスル）を日本で初めて実施（1993年～）。

各研究センター等のアドバイザー・カウンスルとともに、いただいた評価・提言を研究所運営や研究活動に反映し、その強化を図っている。

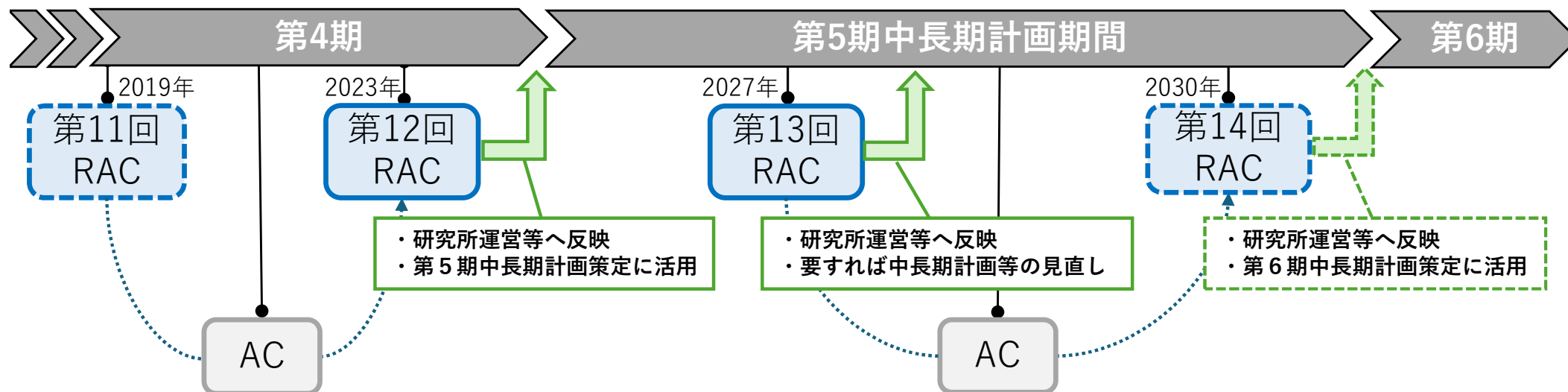


RAC

- 第5期中長期計画期間（2025～2031年度）においては、グローバルな視点で研究機関としての立ち位置について評価を受けるべく、理研アドバイザー・カウンシル（RAC）を期間中に2回（2027年度、2030年度）開催予定

AC

- 今中長期計画期間において、各センターは2027年度RACの翌年度（2028年度）にACを開催予定
- 2028年度AC以外に、各センターの判断で追加のACや国際WS等を開催



第12回RAC 委員 (2023年12月開催)

※所属及び役職は2023年開催時のもの

Tan Chorh Chuan 〈議長〉 シンガポール首相府常任秘書 (国立研究開発) 他	甲斐 千恵子 東京大学 特任教授
Se-Jung Oh 〈副議長〉 ソウル大学 前学長、名誉教授	Rainer Metternich Proteros biostructures社 元取締役副会長・最高戦略責任者代理 他
西村 いくこ 〈副議長〉 国立大学法人奈良国立大学機構 理事 他	Cherry A. Murray ハーバード大学 名誉教授
Bracco Angela ミラノ大学 教授	Henrik Österblom ストックホルム大学 教授
Jean-François Carpentier レンヌ大学 教授	Ole Petter Ottersen ノルウェー大学 教授
Tony F. Chan サウジアラビア・アブドラ王立科学技術大学 学長	Christian Rüegg パウル・シエラー研究所 ディレクター
藤井 孝藏 東京理科大学 教授	Austin Smith エクセター大学 リビングシステムズインスティテュート ディレクター
Peter Gruss 沖縄科学技術大学院大学 特別顧問 他	末松 広行 東京農業大学 特命教授
Wendy Hall サザンプトン大学 欽定教授	武田 晴夫 株式会社日立製作所 技師長 (研究開発グループ)
Jonathon Howard イエール大学 教授	H.-S. Phillip Wong スタンフォード大学 教授
Ümran İnan コチ大学 前学長	山形 俊男 国立研究開発法人海洋研究開発機構 特任上席研究員

第12回RAC 主なプログラム（2023年12月開催）

1 日目

和光地区サイトビジット(視察) 【5h】

2 日目

プレセッションⅠ：各研究センター等の活動・特色、AC結果報告、次期方針に関する説明 【2h】

セッションⅠ：2022年度以降、第5期中長期計画に向けて新たに実施・推進した取組（諮問事項2） 【100min】

セッションⅠ：2019年第11回RAC提言及び2021年中間RAC主な意見への対応（諮問事項1） 【50min】

3 日目

プレセッションⅡ：若手人材育成、ダイバーシティの推進 【90min】

若手研究者との交流ランチ 【90min】

セッションⅡ：第5期中長期計画の方針、新たに実施・推進すべき運営・取組及び研究開発の方向性（諮問事項3） 【90min】

4 日目

RAC委員ミーティング 【2h】

意見交換（RAC議長団－理事長・理事） 【30min】

講評 【50min】



セッション



和光地区サイトビジット

第12回RACにおける研究環境関連の主な提言と対応

- ・第12回RACにおけるグローバルな第三者からの提言も踏まえ、第5期中長期計画における施策に適切に反映。
- ・第7期科学イノベ基本計画で言及された科学技術・イノベーション推進システムの刷新に向けた研究環境（ヒト・カネ・モノと情報）の改革に関連する主な提言と対応は以下のとおり。

【ヒト】

- トップレベルの研究者や職員を採用・維持・育成するために、研究人材開発と人事政策及び取組の改革を高い優先順位で実施し続けること。
- 若手研究者に対するメンター制度を始めとして研究者のキャリア開発のための支援・指導を行うべき。

対応

理研ECL制度による若手PI育成、任期制・無期雇用制度の見直し、メンター制度やキャリア支援の強化及び世界トップレベル研究者への処遇改善による国際的人材獲得の強化を実施

【カネ】

- スタートアップ及び商業化機能の整備を推進すべき。
- 知的財産からのロイヤリティの獲得や技術移転活動の強化など、収入源の多様化を図るべき。

対応

スタートアップ創出支援の強化や産学連携・共同研究の拡大に取り組むとともに、共同研究等の実施にあたり対価を外部機関から受領できるよう「知的貢献費」を設定

【モノと情報】

- 理研の先進科学のインフラは今なお世界をリードしており、国際連携のための強力かつ効果的な基盤を形成しているが、一部のインフラが老朽化しており、交換やアップグレードが必要である。

対応

大型研究基盤の高度化（富岳NEXT、SPring-8-II）やAI・量子基盤の整備、老朽化施設等の改修を計画的に実施するとともに、研究インフラの共用促進を図る